

「新産業都市」きままる

挙県一致の努力をさらに……

指定獲得までの歩み

百八十万県民待望の新産業都市の指定が、さる七月十二日の閣議で正式に内定した。昭和三十七年二月、「新産業都市建設促進法案」が国会に上提されてから一年半、全国四十四地域が激烈な指定運動を展開してきたが、わが不知火有明地区がよく他地域をおさえてゴールインしたことは、まことに喜びにたえないところである。

内定に至るまでの経過は、本年一月、不知火有明地区の開発基本構想についての基礎調査を行ない、二月二十日に経済企画庁を初め関係各省に対して、本地区のすぐれた適性とこれに立脚したスケールの大きい開発基本構想の説明を行なった。

引き続き二月二十五日、県および県議会を初め関係市町村その他経済団体などを網羅した指定促進期成会を結成し、「九州の西側に新産業都市を！」のスローガンのもとに、関係当局に対して、地元の熱意を集めたねば

り強い指定運動を展開した。しかしながら、新産業都市建設の魅力は大きく、その指定は垂涎の的であったため、各県は、「史上最大の陳情作戦」といわれるような熾烈な指定獲得運動を展開したのである。この間、本県は県選出国會議員、県出身財界その他のめざましい活躍もあって、当初の出足の遅れを取りもどし漸次事態は好転し、指定線路上に出てきたのである。

要するに不知火有明地区の指定獲得は、百八十万県民の与望を担った各界の一致結束した熱意と努力の成果であったといえよう。

このような熱意と努力の成果によって指定(内定)されたのであるが、閣議決定による地域名は「不知火・有明・大牟田地区」となっており、福岡県との抱合わせになっているのである。

これは、今回の指定陳情にあたり、福岡県側では県境を越えて、熊本県の有明地区五カ市町村を含む大牟田・有明地区(大川市から玉名市まで)の指定運動を行なったりしたた

めで、これが本県の指定に甚だ支障をきたしたのである。

内定段階では福岡県にまたがっているが、中央においては、両県の調整ができない場合は、熊本県の単独指定の了解もついていると

指定(内定)地区	
(地区)	(道・県)
1 道央	北海道
2 八戸	青森
3 仙台	宮城
4 常磐・群山	福島
5 新潟	新潟
6 松本・諏訪	長野
7 富山・高岡	富山
8 岡山県南	岡山
9 徳島	徳島
10 東予	愛媛
11 大分	大分
12 日向・延岡	宮崎
13 不知火・有明・大牟田	熊本・福岡

のことであるので、あくまで初期の目的である単独指定をせむとも獲得しなければならぬ。

開発の

スタート・ライン

—これからはこうして進める—

あくまで単独指定獲得を基本方針として、新産業都市建設計画のスタートまでの今後のスケジュールは次のとおりである。

- 一 区域の指定申請(法第二条)：八月下旬
- (一) 関係市町村議会の議決
- (二) 県議会の議決
- (三) 指定申請(知事名)
- 二 区域の正式指定(法第三条)ならびに建設基本方針の総理大臣からの指示(法第六条)：九月頃
- 三 前記建設基本方針の指示があった段階で条例による「新産業都市建設協議会」の設置(法第十六条)：九月頃
- 四 建設基本計画の作成、総理大臣に対する承認申請(法第十条)：十一月頃

今後において、このような手続きを要するが、新産業都市建設協議会は、区域の属する都道府県に、その新産業都市の建設基本計画およびその建設の促進に関する重要事項について調査審議するため、設置されるもので、会長は知事で、委員は、

(一) 政令で定める国の出先機関で当該新産業都市の区域を管理するものの長又はその指

名する職員

(二) 関係市町村長および関係港湾管理者の知事が任命した者

(三) 学識経験のある者のうちから都道府県から構成される。

このような事務的段階を経て、新産業都市は、開発基本計画という青写真によって具体的建設が進められることになるのである。

県では、全国平均水準からみて低位にある県民所得の引き上げを目標に、昭和三十六年度から農業の近代化、工業化の促進、人づくりを中心とする「熊本県計画」を推進しているが、今回の新産業都市の指定(内定)を契機として、ますます県産業の高度化、雇用労働力の拡大につとめ、県民所得の増大・県勢の飛躍的發展を期しているが、新産業都市はこの牽引車として、今や開発のスタートラインにいたるところである。

「閣議決定は入学式と考えればよいだろう。十三人の生徒がむづかしい試験に見事パスして入学し、スタートラインについた。まだ

夢多き“不知火有明地区”

—地区の果す役割と開発の方向—

新産業都市建設の主眼とするところは、大都市の過度集中防止と地域格差の是正にある

が、そのために産業の立地条件、都市施設の整備を重点に、集中的な公共投資が行なわれ